2014年度
総合プロジェクト(卒業研究)
指導教員　前田 英寿
副査　　谷口 大造
CY11023　中込 香穂

街と建物を繋ぐ インターフェースデザイン

研究の背景と目的・インターフェースの定義

建物が公共空間に面したり接する部分は、建物の顔とも言える「インターフェース」である。近年そのデザインが多様化している。街を歩いていると、無意識のうちにインターフェースに引き寄せられていることがある。

建物は街に建っているだけだと独立した存在になりかねない。そこにインターフェースを加えることで街と建物の間に自然な繋がりが生まれているのと考えた。そのとても重要な役割を果たすインターフェースについて、特徴や要点を考察していくことにした。一般的なインターフェースについて知ること、いくつかの地域でインターフェースの事例を調査すること、それらを比較検討を行った。

インターフェースとは、街と建物を繋ぐ役割として、建物の 1 階部分にデザインされる空間。人々が集まる役割や建物のアピールになる役割、建物に入るきっかけになる役割を果たす。

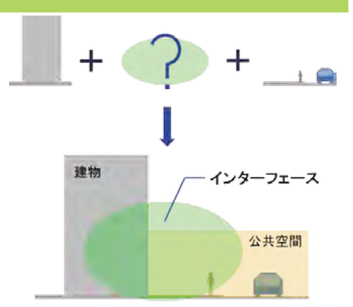


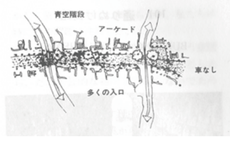
図 1 インターフェース概念図

「パタン・ランゲージにおける」インターフェースデザイン

参考書として、C・アレグザンダー の「パタン・ランゲージ」(1984 年) を用いる。この本では、253 のパタンが紹介されている。そのうち、インターフェースに関する情報を含む以下のパタンを選出した。

(1) 買物街路

(4) 歩行者街路



(7) 正の屋外空間

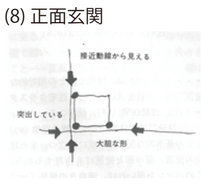
(10) 段階的な屋外空間

(13) 建物の外縁

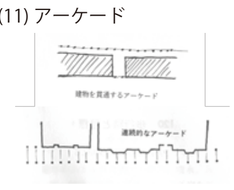
(2) 多目的マーケット

(5) 通りぬけ街路

(8) 正面玄関

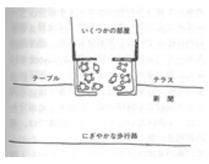


(11) アーケード

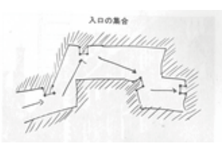


(14) 街路への開口

(3) 路上カフェ

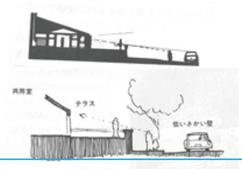


(6) 見分けやすい入口の集まり



(9) 入口での転換

(12) 街路を見おろすテラス



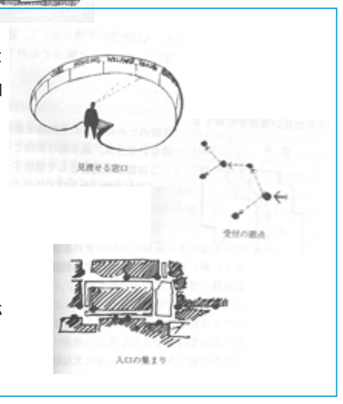
(15) 外廊

【例】 (6)「見分けやすい入口の集まり」

アレグザンダーは、複合的なオフィス、公益施設などにおいて、全体の入り口の関係が一目瞭然でないと目指す入口が分かりにくいことに注目した。そこで彼は事例を検討し、このパタンの一般法則を抽出した。

1.「見渡せる窓口」多目的サービスセンターの計画　：様々な窓口を建物の入口から見渡せる配置。
2.「受付の節点」精神診療所　：1 つの入口だけを主受付となる明確な正面玄関にし、そこから次の受付が目に入る配置。常に受付を辿ればよい。
3.「入口の集まり」市役所の改装　：屋内街路のなかで各サービスの入口を同じような造りにし、張り出させた。入口の集まりの中から容易に行先を選べる。

どの事例も入口の集まりが、一目で集合として了解できることが必要だという。つまり複数の入口が集団を形成し、他の入口が見え、見比べられる。すべての入口が似かよった造りになっているということ。



まちあるき調査１　自由が丘・代官山・品川

自由が丘・代官山・品川のインターフェース

自由が丘・代官山・品川は駅の利用者や歩行者、車も多くアクセスに優れたまちである。その中で多くの目を引く商店が多く点在している。10 個の事例についてそれぞれ、配置図・建物の特徴・写真・図面の事例シートを作成した。

表 1　インターフェースとその建物

	場所	ショップ名	用途	階数	他の階の用途	前面道路	
1	自由が丘	LaManDa	飲食店	5F	学習塾	歩行者優先道路	
2		茶乃子	飲食店	5F	美容室・事務所　他	歩行者優先道路	
3		MONCEAU FLEURS	小売り店	2F	小売店	歩行者優先道路	
4		ISSEIDO　から　elMoza	小売店 等	6F/4F	小売店	ロータリー	一般道(一方通行)
5	代官山	Sign	飲食店	2F	美容室	一般道(一方通行)	
6		LE CORDON BLEU	飲食店	B2F～3F	講義室・実習室	一般道(車線なし)	一般道(2車線+歩道)
7		HOLLYWOOD RANCH MARKET	小売り店	2F	住居	一般道(車線なし)	一般道(2車線+歩道)
8		ALOHATABLE	飲食店	B1F～3F	事務所・小売店	一般道(2車線+歩道)	
9		KENSINGTON WONDER	小売店	B1F～3F	美容室	一般道(一方通行)	一般道(1車線+歩道)
10	品川	ウィング高輪	飲食店等	B1F～3F	小売店・飲食店　他	建物の通り抜け	

図2 自由が丘事例地図

図3 代官山事例地図

図4 品川事例地図

表 2　事例タイプ分け

	タイプ名	ショップ名
でっぱる	Pop-out Type	LaManDa
		茶乃子
		MONCEAU FLEURS
		LE CORDON BLEU
	Around Type	Sign
	Plaza Type	ウィング高輪
	Combination Type	HOLLYWOOD RANCH MARKET
ひっこむ	Stage Type	ALOHATABLE
		KENSINGTON WONDER
	Sidewalk Type	ISSEIDO　から　elMoza

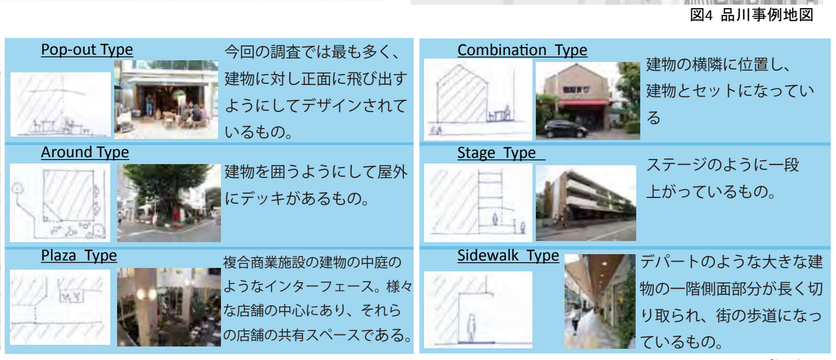


図 5　タイプ概念図
写真 1　事例

自由が丘・代官山・品川の特徴

◇調査で分かったインターフェースの特徴

自由が丘・代官山・品川インターフェースを詳しく調査したことにより、様々な工夫や特徴を発見した。それは、でっぱり型とひっこみ型という単純な 2 種類の他にも、高さや繋がりがあったり、お店に人を引き込む役割以外にも別の役割を同時にもっていたりすることである。また、タイプ分けしたが、他のタイプの要素も含まれているものも見られた。また、一つの建物にいくつもの用途が含まれていたり、一つの商店がいくつかの建物に分かれていたり、様々であった。それに伴って、インターフェースも多様であり個性でもあると考えられる。

車の通りのある道に面していたり、道幅が広く階高が高かったりするため、通りに開けているインターフェースよりも、少し遠くからでも興　味の湧くようなアピールになるインターフェースが多かった。

◇そのうちの商店街のインターフェースの特徴

・道幅は約 10m と広い。（商店街）
・インターフェースのデザインに統一感はない。
・階数はばらばらで 7 階建てのものもある。
・通りに開けたインターフェースは少ないが、通りから目を引くインターフェースは多い。
・一つの建物に複数の商店や他の用途も含まれている

写真 2　広い道幅の商店街

写真 3　統一されていないデザイン

写真 4　目を引くインターフェース

写真 5　一つの建物に入る複数の

まちあるき調査２　谷中・千駄木

谷中・千駄木のインターフェース

谷中・千駄木は、自由が丘・代官山・品川同様に駅の利用者や歩行者、車も多くアクセスに優れたまちである。一方まちの雰囲気は対照的で日本の下町情緒残るまちであり、観光地としても知られる。

6 つの事例についてそれぞれ、配置図・建物の特徴・写真・スケッチの事例シートを作成した。

【例】 2 金吉園
谷中ぎんざ商店街の一角にあるこの建物は、奥まった入り口がとても特徴的な作りになっている。
のり茶店として利用されるそのイメージ通りな、瓦屋根やショーケースがデザインとして取り入れられている。とても興味が引かれるインターフェースである。

図 6 谷中・千駄木事例地図

表 3　谷中・千駄木のインターフェースとその建物

	場所	ショップ名	用途	階数	他の階の用途	前面道路	
1	谷中	CHOCOLATIER INAMURA SHOZO	飲食店	3F	不明	一般道(車線なし)	
2		金吉園	飲食店 小売店	2F	不明	歩行者専用道路	
3		大島屋	飲食店	3F	駐車場、住居	一般道(1車線+歩道)	一般道(一方通行)
4		bangobooks	書店	2F	住居	一般道(車線なし)	
5	千駄木	かこみや	飲食店	2F	不明	歩行者専用道路	
6		大崎パック	小売店	2F	同じ	一般道(車線なし)	

谷中・千駄木のインターフェース

◇調査で分かったインターフェースの特徴

谷中・千駄木では個々として特徴のあるインターフェースもあったが、まちの特色が強く出ているものが多かった。歩いてまちをまわる人に向けたインターフェースが、まちとして統一されたデザインがされていると感じた。まず日本の風情の残る下町ならではの見た目における統一感である。瓦やトタン、木材などがデザインとして多用され、まちに繋がりを持っている。

他にも、通りに開けたインターフェースが多く外からでも中の様子や商品が見ることができ、人々の視覚や聴覚に訴えることで、親しみや繋がりが生まれていた。

また「○○商店街」の他にも「○○通り」や「○○道」のように、名前がついている通りが多かった。これはまちに歩いている人が多いことから、道に足を運びやすく、また道を認識しやすくする狙いがあると考えられる。このようにまず道がまちと繋がりを持ち、道から建物に繋ぐという役割を果たす。道もある種のインターフェースになっていることがわかった。

◇そのうちの商店街のインターフェースの特徴

・道幅は約 5m であり両側の商店に近く感じる。
・多くの商店が通りに開けたインターフェースを持つ。
・瓦やトタン、木材が多用されている。
・全ての商店に庇、統一された看板がある。
・ほとんどが 2 階建て 3 階建てである。

写真 6　名前のついた通り

写真 7　商店街の道幅・インターフェース

写真 8　瓦、トタン、木材

写真 9　統一された看板

研究のまとめ

比較検討

第二章、第三章のまちあるきで集めた事例に、第一章で C・アレグザンダー の「パタン・ランゲージ」から選出したインターフェースの「パタン」があてはまるのか、表にまとめた。色づけしてある事例は、それぞれ商店街の中に属しているインターフェースの事例である。

商店街のインターフェースには多くの「パタン」があてはまる。自由が丘・代官山・品川と谷中・千駄木では個々のインターフェースは異なるものの、商店街のインターフェースはどちらにも同じ「パタン」があてはまることがわかった。商店街は地域としての良さや特色を取り入れることでデザインとして街と建物を繋ぐ。さらに、公共空間との関わりが多く、機能としても街と建物を繋いでいた。

谷中の 5「かこみや」は、隠れ家のような外観で街との繋がりを感じ取れなかったことから取り上げ調査したが、やはりパタンは一つも当てはまらなかった。アレグザンダーの示す「パタン」は建物の外部空間へ働きかける外向きのインターフェースデザインを多く取り上げている。しかし「かこみや」のように外観に現れにくい内向きのインターフェースデザインもあるはずだ。

表 4 「パタン」と事例の関係

パタン	自由が丘・代官山・品川 商店街	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	谷中・千駄木 商店街	1	2	3	4	5	6
(1)買物街路	○	○	○	○							○	○		○				
(2)多目的マーケット												△		△				
(3)路上カフェ	○	○	○			○	○		△		△							
(4)歩行者街路	○											○		○				
(5)通りぬけ街路											○							
(6)見分けやすい入口の集まり	○	○	○	○							○	○		○				
(7)正の屋外空間																		
(8)正面玄関	○		○	○				○		○		○			○	○		
(9)入口での転換											○							
(10)段階的な屋外空間								○										
(11)アーケード											○							
(12)街路を見おろすテラス									○									
(13)建物の外縁	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○				
(14)街路への開口	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○		○		○
(15)外廊											○							

○　：パタンがあてはまる
空欄　：パタンはあてはまらない
×　：曖昧である / パタンのある条件は満たしているが一部の条件は満たしていない

これからの課題と展望

今回の研究では、今まで知らなかったインターフェースの特徴や工夫を知ることができた。また、多様なインターフェースのパタンをまとめ、建物の環境や用途に合わせたインターフェースの考え方や方法を詳しく知ることができた。さらに実際にまちあるきを行うことで実例に触れ、一般にまちをあるく立場として、インターフェースを体感することができた。

私が取り上げることができたのは、自由が丘・代官山・品川と谷中・千駄木であり、特徴でくくると二つの地域のみである。さらに多くの地域でまちあるき調査を行えば、新たなインターフェースのタイプや、まちとしてのインターフェースの特徴がみえてくるはずだ。

建物にとってインターフェースはとても重要なものであり、その建物の印象だけでなく、その建物周辺が有効な空間になるかどうかということも左右する。一方で私たちが目にする街並みにおいても、インターフェースはとても重要である。日々進歩し続ける街並みの中で、大切に残すべき街並みも多く存在する。インターフェースを考えるときに、建物と街並みの要求にバランスが良く応えることができると良いだろう。もしくは、街並みにあった用途の建物を建てたり、反対に用途に応じたインターフェースの合う街並みを探したりすることもできる。

適した有効なインターフェースにより街と建物が繋がりを持ち、そこに新たなアクティビティや人々の繋がりが生まれ、街も建物も活気づくことを期待する。

参考文献

「パタン・ランゲージ―環境設計の手引」　クリストファー・アレグザンダー , 鹿島出版社 , 1984 年
「In the Search of Urban Quality: 100 Maps of Kuhonbutsugawa Street, Jiyugaoka 都市の質を探して : 自由が丘、九品仏川緑道百景」
ダルコ・ラドヴィッチ、ダヴィシー・ブンタム , flick studio , 2014 年
「街並みの美学」　芦原義信 , 岩波書店 , 1979 年
「Window Scape 2」　塚本由晴、能作文徳 , フィルムアート社 , 2014 年
「谷根千ウロウロ」　http://yanesen.urouro.org/2008/02/post08020302.html